

カタロニア旅行記 (2016/9/13~21)

バルセロナはカタロニア（カタルーニヤともいう）の首都で、サクラダファミリアやピカソ美術館で有名な街である。加えて最近英国のEU離脱決定を契機にスペインからの独立が起こりそうな地域（広範な自治権を有する州政府）としても注目を集めている。

2016/9/13(火)

23:45 羽田からパリ経由バルセロナ行きのエアフランスに乗車。機内では「Xmen」と「家族はつらいよ」を見る。「King of Egypt」は日本語字幕が無く諦めた。パリのシャルルドゴール（CD）空港にて早朝4時から7時まで待つ。機内食は美味しく、映像機器は最高水準だった。しかし冷房がきつく上着とカーデガンで助かった。空港内は流石パリといったデザインだった。トイレも大変美しく良好。コーヒーは3.2ユーロ（以下€）だった。空港内ATMで600€引き出した。海外旅行では現金は1万円を両替えし、あとは現地ATMで現地通貨を引き出すのが鉄則である。

9:30 バルセロナ空港に到着。この空港もパリと同じく真新しいデザインだが、航空貨物（バック）が出てくるまで1時間もかかった。空港から宿泊先のコロン・ホテルまではタクシーで20分程であった。12:30 ホテル近辺のレストランでランチ。その後カタロニア音楽堂まで徒歩で向かう。凄く奇抜な建築物だ。この町はガウディ、ピカソ、ダリで有名だが、その他無名の芸術家も沢山いる。次にエルコンテイングラスという大手百貨店で買い物をする。

2016/9/14(水)



9:00 サクラダファミリアに向かう。入場チケットは事前に購入していた（写真ご参照）。ここは本当に凄いという表現がピッタリ。パリのルーブル美術館やモンサンミッシェルにも匹敵する。これを見ただけでもバルセロナに来た甲斐があったと正直思う。この大聖堂はまだ建築中で2026年（ガウディ没後100年）に完成予定とのこと。既に140年建築している。昨今入場料が上がり資金が豊富となったので建築速度が高まったと聞いた。塔にはエレベーターで上り、400余の階段をゆっくり降りたが眼下の景色は最高に良かった。朝一番の入場だったので比較的空いていたのも良かった。

午後はCityバスツアーで市内見物。海辺沿いのオリンピック公園とスペイン村などを見学する。バルセロナの街は衛生的で良く整備されていた。

夕食はラドルサエルミニアのパエリアを頂く。こも安くて美味かった。

2016/9/15 (木)



午前はグラシア通りのガウディの傑作Casa・ミラを訪問(写真ご参照)。世界遺産で高級住宅マンションとして建築された。現在半分が博物館に改造され、残り半分はオフィスとして利用されている。ガウディの才能が如何なく表現されている。また博物館見学に必要なオーディオサービス(日本語解説)も大変充実していた。

午後はガウディのもう一つの住宅建築物であるCasa・バトリヨに向かうが、見学者の行列の多さに閉口し日を改めて来ることにする。その隣のカフェでランチを済ませ、カタルーニャ広場を經由して有名なランブラス通りをゆっくりと歩いた。

サンジュセップ市場(写真ご参照)を見学し、さらにリセウ劇場前を通過してレイアール広場で休息した。この広場もバルセロナの風情が楽しめる。参考図書として挙げた小説「風の影」にも出てくる。コロンブスの塔(写真ご参照)までの通りは、路上芸人が沢山演技しており楽しめた。



タクシーでレストランのエルカングレホ・ロコに行く。6時半に予約し定刻過ぎに到着した。お客は日本人カップル数組だけ。当地では8時過ぎに夕食を取るのが通常らしく6時半なら殆どお客はいない。実際8時過ぎからどんどんお客が集まり9時にはほぼ満員になった。ここのタラとスズキの料理は絶品だった。そしてリーズナブルであった。

2016/9/16(金)

コロソホテル前のカテドラル（バルセロナには大聖堂は多いが、ただカテドラルと呼ばれるのはここだけ）を見学する（写真ご参照）。サクラダファミリアより小型であるが数ヘクタールの敷地は優にある巨大建築物だ。また隣りは王宮の広場であり観光名所の一つでもある。

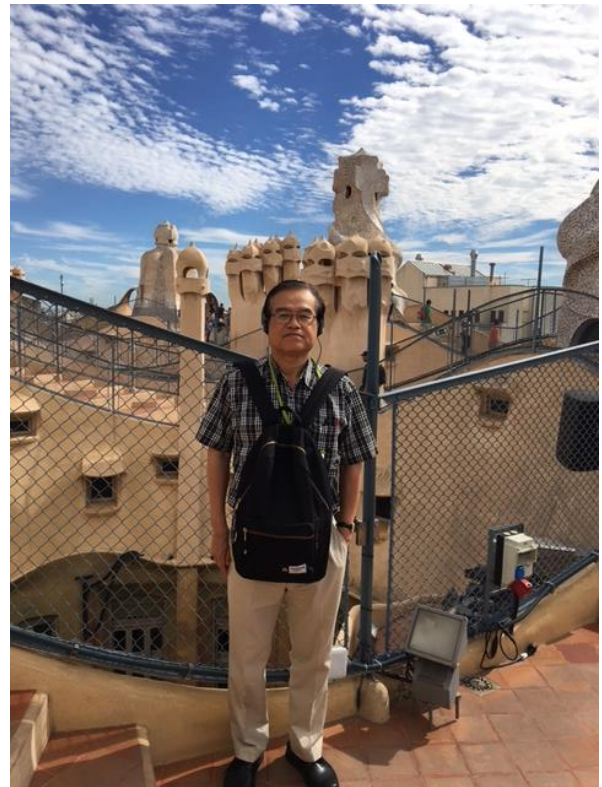


10時半にサンテカテリーナ市場からマリア教会まで散策する。この教会も大変有名で世界的ベストセラー小説である「海のカテドラル」(注;翻訳あり)の舞台となったところである。

近くの BUBO というガイドブックにあった喫茶店でお茶し Natura で買い物。旧市街を散策すること90分。本日と昨日の歩数は15000を超える。ランチは市場の中のバルで済ませます。

午後は、カサ・バトリヨに行く。カサ・ミラが山

をモチーフにした住宅建築であるのに対し、ここは海をモチーフにしたもので曲線の多い屋上が見ものである（写真ご参照）。ガウディの独創的な建築と家具類に改めて感銘を受ける。



夕方から旧市街でスペイン名物タパスでワインとビールを堪能する。その後スペイン広場の噴水ショーを見学した。毎週金曜に開催されるようで噴水ショーは中々見応えのあるものだった(写真ご参照)。数万人の観客はいたのだろうか。最終までいると帰宅困難と判断し途中で切り上げてホテルに戻った。

ホテルではテレビニュースを毎日1時間程度見ていたが、日本関係は皆無。中国の英国向け原発輸出のニュースが報道されていた。国際ニュースは、中東のシリア情勢とアメリカ大統領とEU統合問題が何度も報道されていた。

海外旅行中はテレビと新聞を時々読むが、日本の扱いが非常に少ない。「井の中の蛙大海を知らず」にならないように毎年海外旅行をしている。

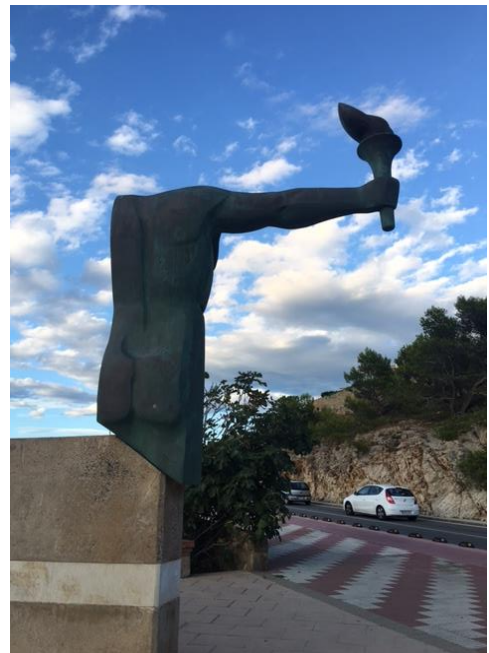


2016/9/17(土)

午前の観光は、ホテルから徒歩30分の凱旋門とピカソ美術館を見学。ピカソは少年から青年時代にバルセロナで暮らした。若い時代は、風景画、美人画、静止画などがあって興味深く見学出来た。美術館には400点程の作品が展示されている。

午後から友人夫妻の住むエスカラ(レスカラともいう)に向かう。友人(日本人の妻)が昨日からバルセロナに来てホテル周辺の穴場を案内をしてくれた。サンツ駅から午後13時17分の高速列車に乗り55分でフェゲレスに到着。ご主人が車で迎えに来ており30分でエスカラの邸宅に着いた。エスカラはローマ時代の遺跡もある古い漁村。今は欧州でも指折りのリゾート地として発展している。

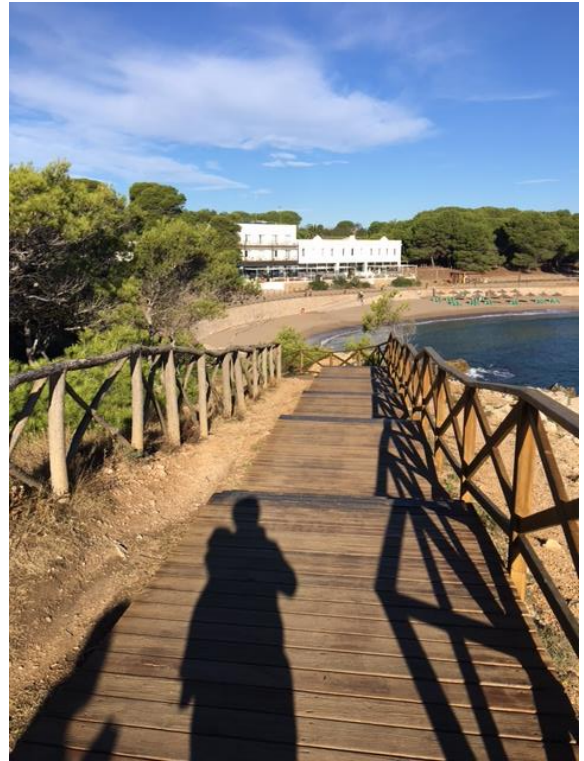
友人の実父は著名な画家で1986年に土地を購入しアトリエ付き住居を建築した。現在は長女夫妻(夫はドイツ人)が8年前に転居。バルセロナから北東120km程離れた小さな村である。1992年のバルセロナオリンピックの際、ギリシャから持ち込まれた聖火がスペインに上陸場所である。それを記念したオブジェがある(写真ご参照)。



2016/9/18(日)

朝 8 時起床。リゾート地として整備された海沿いの散歩道を歩く。海水浴シーズンは終わったがまだ沢山の人が楽しんでいる。この散歩道はジョギングする人とサイクリングをする人も多い。老弱男女の憩いの場で景色が大変素晴らしい。ハワイで見たビーチも色褪せる程美し景色だった。海岸沿いの岩場と砂浜とホテルがうまく調和している。友人夫妻がこの地に退職後転居してきた理由が分かったような気がした。(写真ご参照)

午後エスカラの高台とパルスという街までドライブする。車はルノー製で快適だった。画家が描きたい風景が盛り沢山。明日はフランスの小さな街に出掛ける予定。エスカラはカタロニアとフランスの国境にある。



2016/9/19(月)

8時にエスカラ市街を散歩。9時から友人夫妻とフランスのパーピニオンという古い街までドライブ。エスカラから 70 キロぐらいで約 90 分掛かった。途中アウトバーンを利用したが大変快適だった。国境通過しても何もチェックされなかった。ただパスポートは持参した。パーピニオンは千年前のマヨルカ王国の本拠地。市内を走るミニ観光バスで見物した。その後地元のレストランでフランス料理を食べた。(写真ご参照)

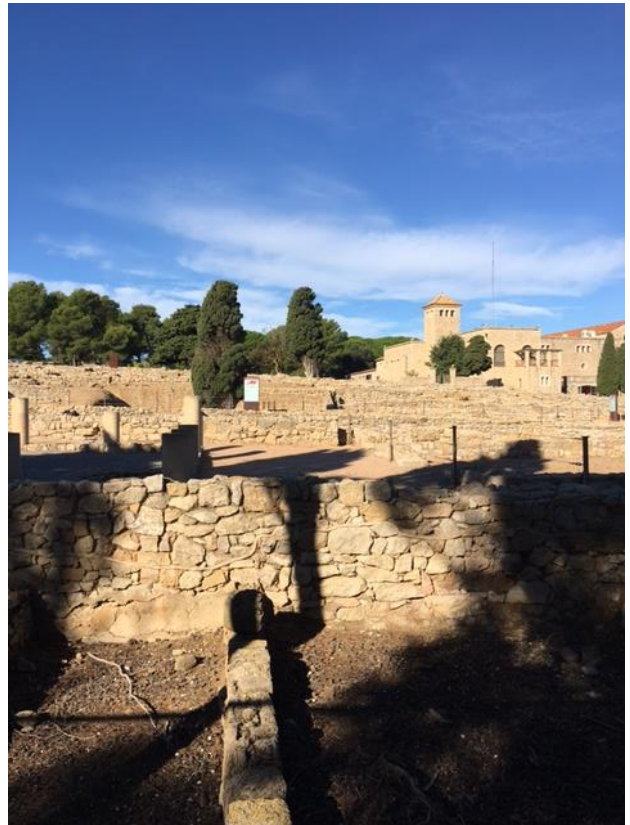
午後はオーシャンというフランスの巨大スーパーで買い物し、5時前に帰宅。

夕方 6 時から再度海岸沿いの遊歩道を歩く。古代遺跡はギリシャ・ローマ時代に建設された 2 千年前の遺跡だと知り驚いた（写真ご参照）。いつか世界遺産になるような遺跡であった。

2016/9/20（火）

朝から市街地の方角に再度散歩。街中の伝統的なカフェでたまたま友人の友人と出逢う。エスカラに住む 3 人の日本人の 1 人の奥さんで、素敵なスイス人だった。7ヶ国語を話し日本語も流暢だ。大阪・奈良・京都に住んだことがある。過去にはスペイン、チュニジア、シンガポール、英国、ペルーなどに住んだとのこと。欧州人の国際性は日本人の比ではない。

午後友人夫妻に車でフェゲレスに送って頂き 15:47 発高速列車でバルセロナに乗車 16:42 到着。フィゲレスからの乗客数は 30 人程で日本の新幹線とは比較にならない程少ない。サンツ駅から空港までタクシーで 30 分。そしてパリ経由羽田行きエアフランスに乗車。パリ空港での乗換時間は 60 分で入国審査が遅く少し焦った。羽田までの機内では「Good Will Hunting」を鑑賞した。数学の天才青年の数奇な人生活だが、アメリカらしいハッピーエンドで良かった。



カタロニア州は人口 7 百万人（デンマークとほぼ同じ）。州内の役所と学校の公用語はカタロニア語で市内案内はカタロニア語とスペイン語の併記である。観光名所の表示はこの 2 言語以外では英語とフランス語だった。カタロニア語はスペイン語よりフランス語に近いようだ。日本語表記は有名レストラン以外ほとんど皆無。エスカラの緯度は横浜とほぼ同じで温暖で雨が少ない。夏は海水浴客で混雑するので春と秋が観光シーズンとしてベストである。

今回の旅行でも多くのことを学んだ。例えばハリウッドの人気映画の「The Lord of the Rings」や「ホビットの冒険」シリーズは、トルキンの小説が原作だ。この小説の舞台はひょっとしたらカタロニアの中世時代ではないかと思えた。それぐらいカタロニアの中世は波瀾に富み、地中海帝国の興亡は面白い。総合的に今回も楽しい旅だった。10 年後また行きたいスポットである。

<参考図書>

- 1、 「物語 カタルーニャの歴史 知られざる地中海帝国の興亡」 中公新書 田澤耕著
- 2、 「風の影 上」 集英社文庫 カルロス・ルイスサホオン著 木村裕美訳
- 3、 「海のカテドラル 上」 インデフォンソ・ファルコネス著 木村裕美訳